

慢性的に続く不正性器出血に漢方薬が著効した一例

多和田 利香 先生

Fクリニック沖縄

2004年 琉球大学 医学部 卒業
 同 年 那覇市立病院 初期臨床研修
 2006年 宮崎大学 医学部 婦人科
 2008年 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 産婦人科
 2012年 兵庫県立尼崎病院 東洋医学研究所 研修
 2013年 やんハーブクリニック Naoko女性クリニック
 2017年 Fクリニック沖縄 開業

はじめに

不正性器出血とは、月経以外にみられる性器からの出血のことをいう。その原因としては、子宮癌やポリープ、子宮や膣の炎症、内分泌異常、妊娠に伴う出血、血液疾患などがある。このうち最もよくみられるのが、視床下部－下垂体－卵巢系の機能失調による内分泌異常でおこる機能性子宮出血である。

機能性子宮出血の治療として一般的にはホルモン治療が施行されるが、症例によっては女性ホルモン剤が禁忌であったり、副作用が強いなどの理由で内服できず、出血のコントロールが困難になることもある。

このような症例に対し漢方薬が有効であったので、その経験を紹介する。

東洋医学で考える出血の原因

東洋医学で考える出血の原因には、血熱・瘀血・気虚の3つがあると考えられている(図1)。

図1 東洋医学で考える出血

- 血 熱：熱症とともに出現する出血。鮮紅色。実熱によるものと虚熱によるものがある。
- 瘀 血：血流うっ滞や凝固能の亢進による出血。暗赤色。慢性的に反復することが多い。
- 気 虚：気の固摂作用の低下による出血。淡紅色。気不摂血または脾不統血といわれる。

今回供覧する症例は気虚による出血例である。“気の固摂作用”とは、血が脈管外に漏れ出ないように統制する気の機能である。その機能の低下により血は脈管外に漏れ出てくる。

症 例

症 例：38歳 女性(4経妊2経産)

主 訴：不正性器出血

既往歴：子宮頸部高度異形成にて子宮頸部円錐切除術(X-6年)が施行されている。

家族歴：特記事項なし

現病歴：X-4年より断続的に続く不正性器出血があった。他院で施行した子宮頸部細胞診、子宮内膜細胞診、ホルモン検査では異常はなかった。

女性ホルモンの分泌調整異常による月経不順と機能性性器出血の診断で低用量ピルを処方されたが、吐き気、めまい、むくみなどの副作用が強いため内服を中止、その後は経過観察とされていた。

不正性器出血が長期間続く場合は中用量ピルの不定期な内服で対処していたが、強い吐き気、めまいなどの副作用があった。貧血がひどい時は、ヘモグロビン値(Hb)は6g/dL台まで低下した。

受診までの出血の状況を図2に示す。X年6月中旬に中用量ピルを7日間内服し、しばらく出血は落ち着いていたが、8月中旬から出血が続くようになり、10月から出血量

が増加したため再度中用量ピルを内服した。その後の消退出血の期間(11月)に当院を受診した。

検査所見から、当院でも女性ホルモンの分泌調整異常による月経不順と機能性子宮出血と診断した。また、東洋医学的所見から気血両虚+腎虚と診断し、気血双補+補腎による治療を行う方針とした(図3)。

経過を図4に示す。漢方薬の服用を始めてから不正性器出血はみられず、患者さんは喜んでおられた。その他の症状も改善し、月経も順調となった。

図2 当院受診までの出血の状況

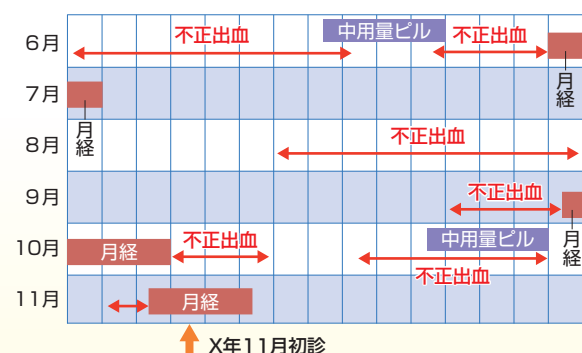


図3 身体所見と東洋医学的所見

身体所見

身長:165cm 体重:47.7kg、
BMI:17.5 血圧:104/60mmHg

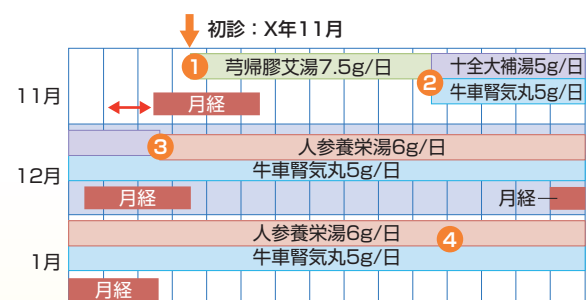
超音波検査

子宮:内膜4mm、肥厚なし
卵巣:右腫大なし、左3cm大のう胞あり
血液検査:Hb 12.7g/dL、PLT 34.4万/ μ L、凝固系異常なし、
肝酵素上昇なし、ホルモン値(LH、FSH、E2、PRL)異常なし
子宮頸部細胞診:異常なし
性感染症検査:淋菌陰性、クラミジア陰性

東洋医学的所見

現症:倦怠感あり、不安感強い、動悸あり、髪が抜けやすい、
爪がもろい、冷え性、下腿が浮腫みやすい、便秘傾向
舌診:舌色淡紅、舌苔白薄、舌下静脈怒張なし
脈診:中取、細、弦
腹診:腹力中等度、臍上悸あり、小腹不仁あり

図4 経過



- 1 消退出血があったため、止血目的に芍婦膠艾湯を処方(標治)。
- 2 気血双補に十全大補湯、補腎に牛車腎気丸(下肢の浮腫の訴えがあるため牛車腎気丸を選択)を処方(本治)。
- 3 倦怠感はやや軽減したが、不安感や動悸に変化はなく、安神作用を有する遠志を含む人參養榮湯に変更。
- 4 倦怠感や不安感はかなり軽減。動悸は継続。11週間後にはほとんどの症状はみられなくなり、体調は良好となった。

考 察

本症例は人參養榮湯で気を、牛車腎気丸で陽気を補うことで気の固摂作用が高まり、不正性器出血がみられなくなったと考えられた。

月経不順については、不正性器出血が消失したことに加え、牛車腎気丸で腎を補い、さらに人參養榮湯の遠志と五味子で補腎効果を高めたことが、不安感や動悸については、人參養榮湯の遠志が有効であったと考えられた。

まとめ

副作用が強く、ホルモン剤での出血コントロールが困難であったが、漢方薬で気血双補、補腎をすることで不正性器出血がみられなくなった。

女性ホルモン剤の禁忌例または慎重投与例、副作用が強い症例には、漢方治療を積極的に検討してもよいと考える。

Discussion

木村: 38歳という年齢の割には腎虚の程度がかなり大きいと思いました。

多和田: 初診時に当院のスタッフがこの患者さんを「綺麗な方だけれど幽霊みたい」だと評したのですが、一般の人から見てかなり生気が落ちている印象で、腹診でも小腹不仁があったため、腎を補う必要性を感じました。婦人科では30歳代でも妊孕性が落ちている方や、また産後に体力が回復しないという方で腎虚がみられる方がいらっしやいます。